

本書をお読みになる前に

本書の表記

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面はご使用のOSにより異なります。また、このマニュアルに掲載の画面は、説明の都合上、実際に表示される画面の一部を抜き出しています。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
 ↓
 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows Server 2003
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition	
Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	

参考情報

■ ソフトウェア説明書について

ServerStart では、本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStart をお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、"README.TXT" というファイル名で、ServerStart CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ ServerStart に関する最新情報について

ServerStart に関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/primergy/>) に記載されています。

商標

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目 次

第1章 ネットワーク構築の設定方法

1.1 ネットワークパターンについて	6
1.1.1 各ネットワークパターンの特長	7
1.2 Active Directory－新しいフォレストの構築.....	9
1.2.1 新しいフォレスト構築時の設定方法	9
1.3 Active Directory－新しいツリーの構築	12
1.3.1 新しいツリー作成前の準備	12
1.3.2 DNS ゾーンの作成	12
1.3.3 新しいドメインツリーの設定方法	14
1.4 Active Directory－追加ドメインコントローラの構築.....	18
1.4.1 追加ドメインコントローラ構築時の設定方法	18
1.5 Active Directory－子ドメインの構築	22
1.5.1 子ドメインを構築する前に	22
1.5.2 子ドメイン構築時の設定方法	23
1.6 ドメインメンバサーバの構成	26
1.6.1 ドメインメンバサーバ構築時の設定	26
1.7 スタンドアロンサーバの構成	28

第1章

ネットワーク構築の設定方法

ServerStart を使用してサーバをセットアップする際に構築できるネットワークパターン別の設定方法について説明しています。

1.1	ネットワークパターンについて	6
1.2	Active Directory -新しいフォレストの構築	9
1.3	Active Directory -新しいツリーの構築	12
1.4	Active Directory -追加ドメインコントローラの構築	18
1.5	Active Directory -子ドメインの構築	22
1.6	ドメインメンバサーバの構成	26
1.7	スタンドアロンサーバの構成	28

1.1 ネットワークパターンについて

ServerStart を使用してサーバをセットアップする際に構築できるネットワークパターンごとの、設定のポイントについて説明します。

ServerStart では、以下のネットワーク構成のサーバを構築できます。

- ・ ドメインコントローラ（Active Directory ドメイン）サーバ
- ・ ドメインメンバサーバ
- ・ スタンドアロンサーバ

POINT

- ▶ それぞれのネットワークパターンを構築する場合の設定について、『環境設定シート』の「デザインシート」－「(インストール OS 用) OS ウィザードシート」にあらかじめ設定値を記入しておくと、インストール時にスムーズに設定が行えます。
- ▶ インストールする OS により設定画面が異なります。Active Directory ドメインの構成について、ここでは Windows Server 2003 R2 を例に説明します。

重要

- ▶ ServerStart でドメインコントローラ（Active Directory ドメイン）の構築を行うと、富士通ドライバ自動適用ツールを使用することができません。富士通ドライバ自動適用ツールを使用する場合は、ドメインコントローラの構築は OS インストール後に行ってください。

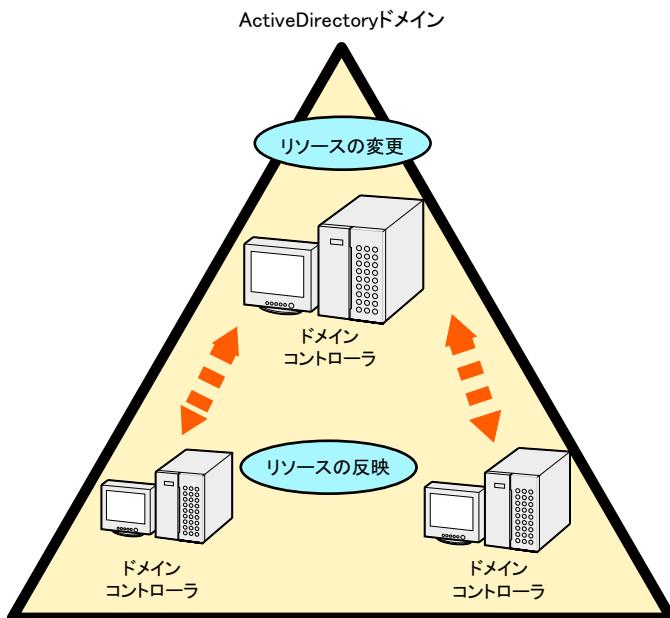
1.1.1 各ネットワークパターンの特長

各ネットワークパターンの概要について説明します。どのネットワークパターンで運用を行うか、参考にしてください。

■ ドメインコントローラ

Windows Server 2003 / Windows 2000 Server ドメインは、Active Directory（LDAP をベースとしたディレクトリサービス）を基本に構築されており、一般的に Active Directory ドメインと呼ばれます。

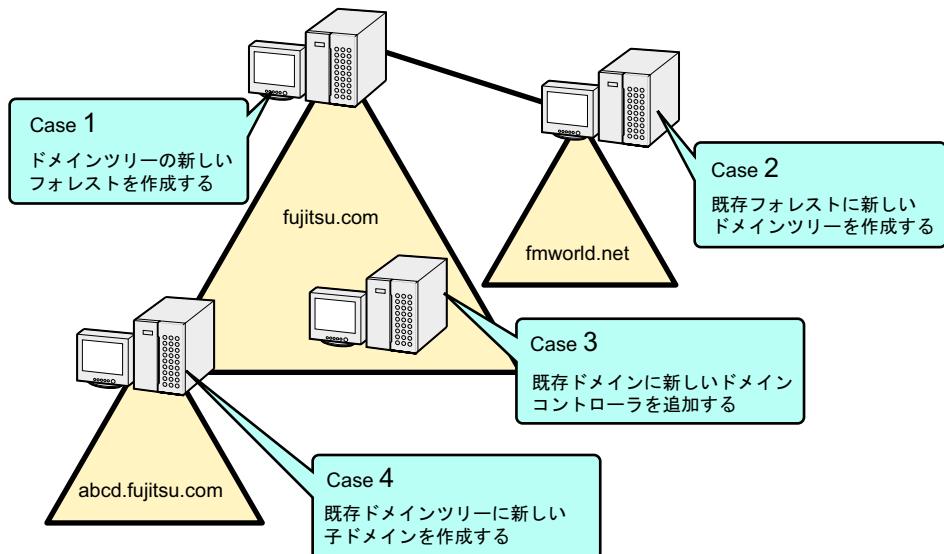
Active Directory では、PDC（プライマリドメインコントローラ）と BDC（バックアップドメインコントローラ）という概念ではなく、Active Directory 内の、あるドメインコントローラ上で変更されたリソースは、同じネットワークにあるすべてのドメインコントローラに反映されます。このため、Windows Server 2003 / Windows 2000 Server をドメインコントローラとする場合は、Active Directory に関して理解しておく必要があります。



● Active Directory の構築パターン

Active Directory を構築するには、次の 4 つのパターンがあります。

- Case1: 新しいフォレスト
- Case2: 新しいツリー
- Case3: 追加ドメインコントローラ
- Case4: 子ドメイン



POINT

Active Directoryに関する基礎用語

- ▶ **ドメインツリー**
ドメインツリーは、ドメインを構成する最小単位です。既存のドメインツリーに子ドメインを作成する場合、DNS サフィックスが継承されます。
- ▶ **フォレスト**
1つ以上のドメインツリーが、依存関係なく接続されている関係を表します。
新しいドメインツリーを作成する場合、DNS サフィックスは継承されません。

重要

ドメインコントローラを構築する際の注意事項

- ▶ ドメイン環境にアドオンされるクライアント OS のレベルにより、ドメインコントローラがサービスすべき WINS などのサービスをインストールする必要があります。
- ▶ インストールするネットワークパターンによっては、事前に上位ドメインコントローラ（DNS サーバ）の設定が必要になる場合があります。

■ ドメインメンバサーバとは

ドメインメンバサーバとは、ドメインに参加している多目的サーバを意味します。
権限があるドメイン内のすべてのリソースにアクセスすることができ、またアクセスされます。

■ スタンドアロンサーバとは

スタンドアロンサーバとは、一般にワークグループ環境と呼ばれる小規模な環境で利用するサーバを意味します。小規模な環境での利用を想定しているため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するため、管理性が低くなります。

1.2 Active Directory－新しいフォレストの構築

新しいフォレストとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しいシステム全体のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合に、最初に行う作業となります。

Active Directory を構築する前に、ネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。

重要

Active Directory を構築する際の注意点

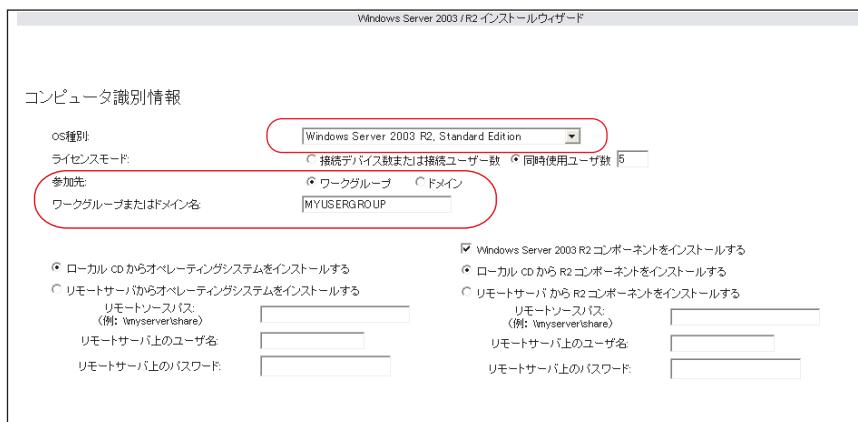
- ▶ 既存の DNS サーバを利用して Active Directory を構築することはできません。
- ▶ 既存の DNS をを利用してドメインを構築する場合は、スタンドアロンサーバとして OS インストール後、手動でドメインの構築を行います。

1.2.1 新しいフォレスト構築時の設定方法

新しいフォレストとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードの各画面で次のように設定してください。

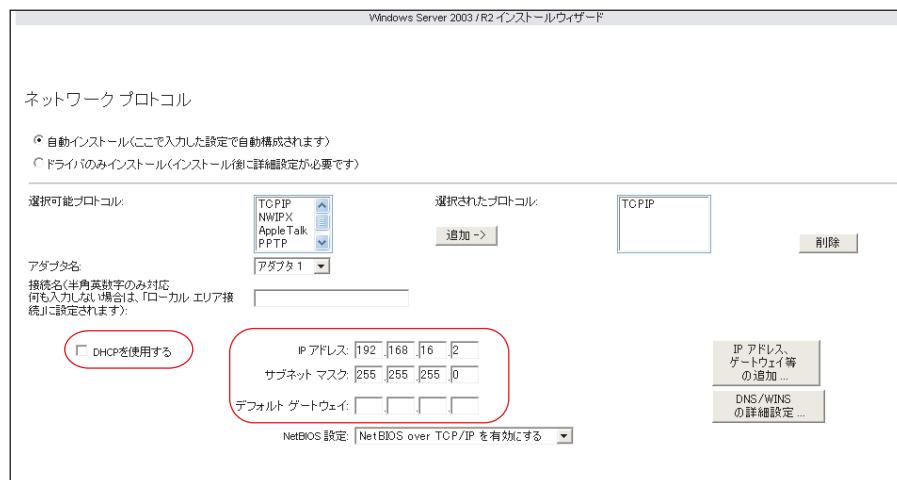
■「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

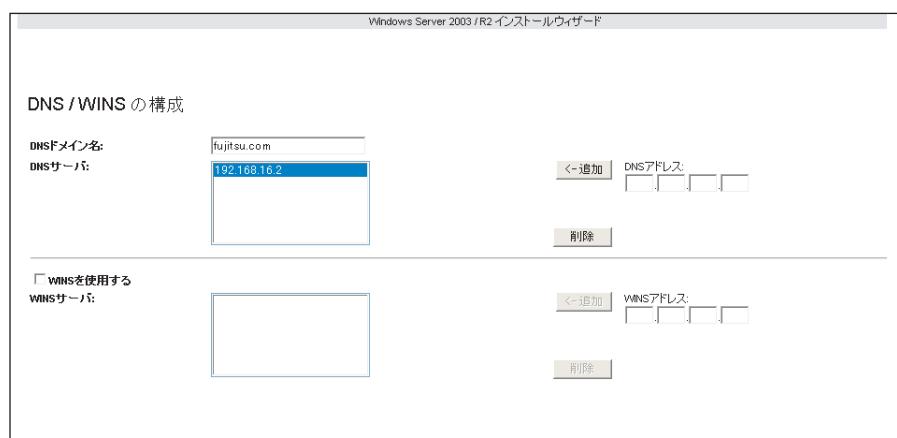


■「ネットワークプロトコル」画面

- 1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。**



- 2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。**



この例では、DNS ドメイン名を fujitsu.com とし、DNS サーバを自分自身（192.168.16.2）に設定しています。DNS ドメイン名は後の設定にも利用するので、必ず覚えておいてください。
必要に応じて WINS の設定も行います。

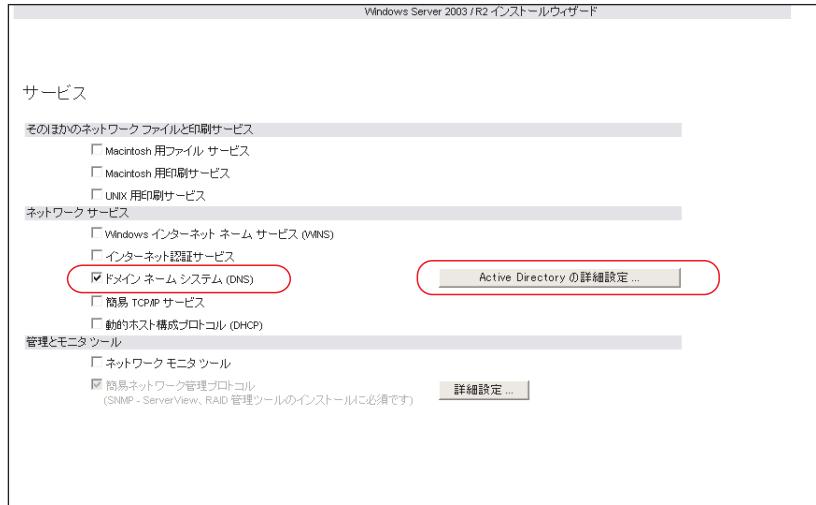
■「サービス」画面

POINT

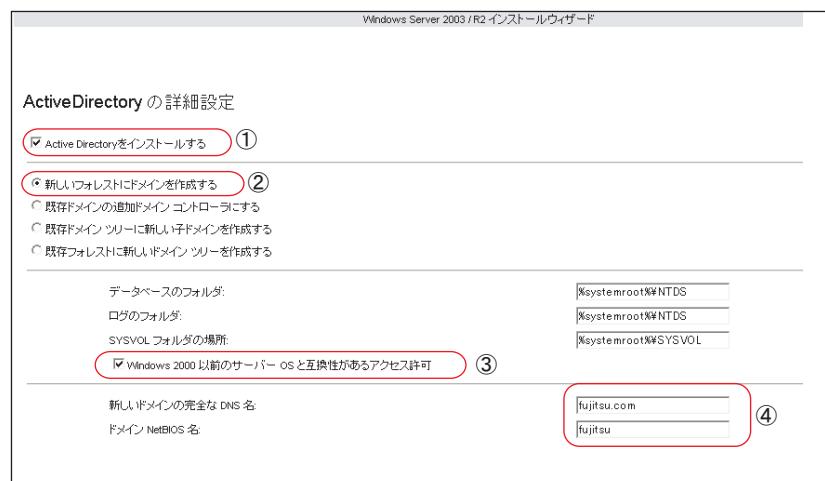
- ▶ OSインストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



2 「Active Directory の詳細設定」画面で、各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「新しいフォレストにドメインを作成する」が選択されていることを確認します。
3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバー OS と互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. 「新しいドメインの完全な DNS 名」に DNS サーバ名を、「ドメイン NetBIOS 名」に NetBIOS 名を指定します。

1.3 Active Directory –新しいツリーの構築

Active Directory を新しいツリーとして構築する場合の設定について説明します。

新しいツリーとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しい下部組織のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合、一番最初に行う作業となります。

1.3.1 新しいツリー作成前の準備

新しいツリーを作成する前に、フォレストとの接続性を考えたネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ツリールートのネットワークアドレス
- 新規ツリーのドメイン名

重要

- Active Directory を構築する際の注意点
ServerStart を使ったこのパターンのインストールでは、あらかじめ新しいツリーが使用する DNS ゾーンを作成しておく必要があります。

1.3.2 DNS ゾーンの作成

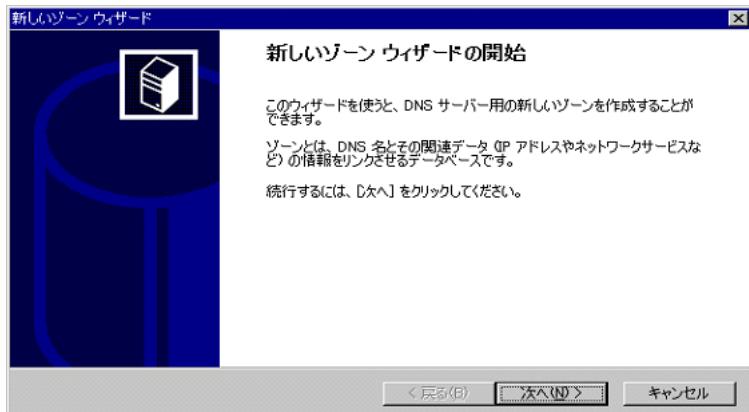
新しいツリーでは、DNS ゾーンを既存のフォレストに「新しいゾーン」として管理する必要があります。ここでは DNS ゾーンの作成方法について簡単に説明します。

次に、ServerStart を利用するために最低限必要な手順を示します。ただし、実際の運用・管理では、このほかに詳細なパラメータ設定が必要となる場合があります。管理方法なども含めて、Active Directory に関するマニュアルを参照してください。

- 既存のフォレストのルートドメインコントローラに、ドメインの管理者権限でログオンします。
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「DNS」の順にクリックします。

- 3** コンソールツリーから DNS サーバを選択し、「操作」→「新しいゾーン」の順にクリックします。

新しいゾーンウィザードが起動します。



- 4** [次へ] をクリックします。

ゾーンの種類を選択する画面が表示されます。

- 5** ゾーンの種類を選択し、[次へ] をクリックします。

ゾーンデータのレプリケート方法を選択する画面が表示されます。

- 6** レプリケート方法を選択し、[次へ] をクリックします。

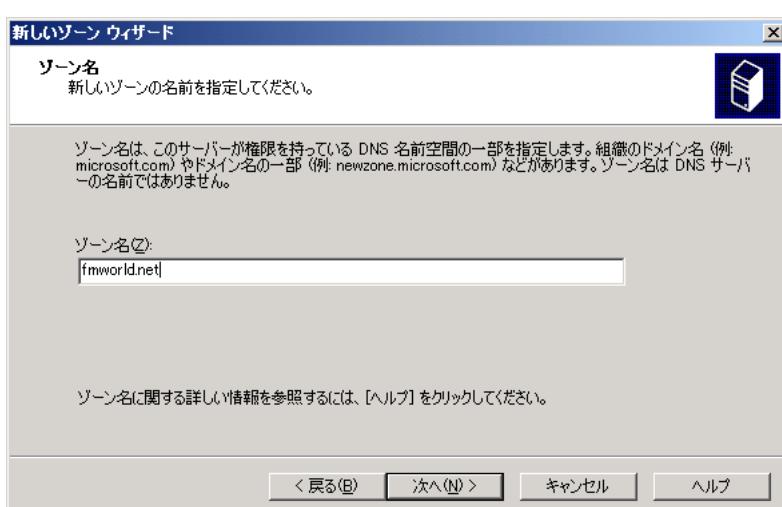
参照ゾーンの種類を指定する画面が表示されます。

- 7** ゾーンの種類を選択し、[次へ] をクリックします。

ゾーン名を入力する画面が表示されます。

- 8** ゾーン名を指定します。

このゾーン名が ServerStart の「DNS ドメイン名」に相当します。



9 [次へ] をクリックします。

動的更新の種類を選択する画面が表示されます。

10 動的更新の種類を指定し、[次へ] をクリックします。

完了画面が表示されるので、ゾーンが作成されていることを確認します。

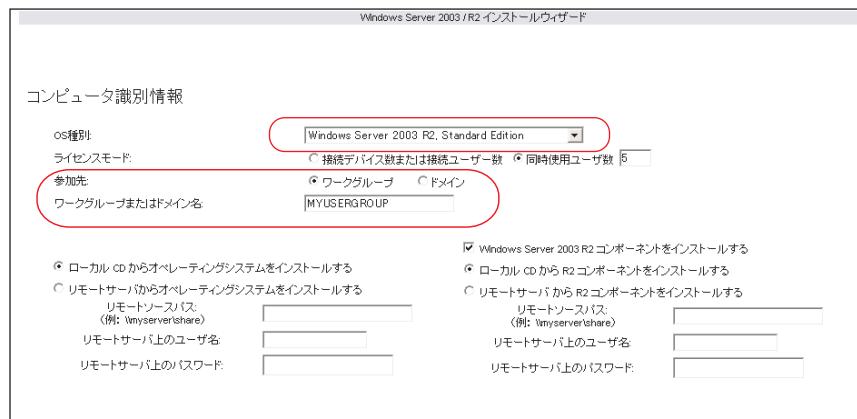
11 [完了] をクリックします。

1.3.3 新しいドメインツリーの設定方法

新しいツリーとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

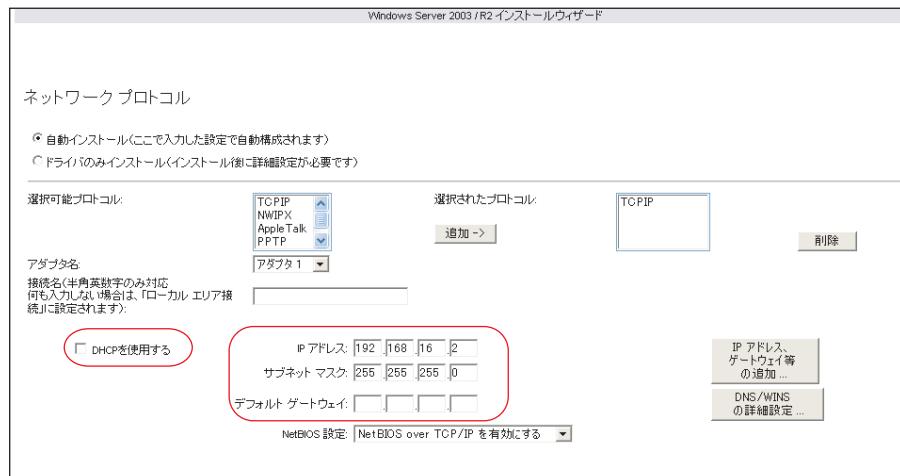
■「コンピュータ識別情報」画面

1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

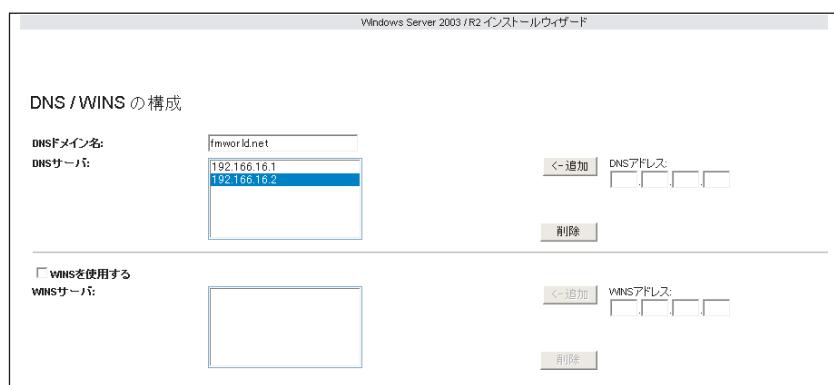


■「ネットワークプロトコル」画面

- 1 「DHCPを使用する」のチェックを外し、IPアドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。**



- 2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNSに関して詳細設定を行います。**



「DNS ドメイン名」に、作成するツリーのドメイン名（この例では fmworld.net）を指定します。

「DNS サーバ」には、次のアドレスを入力します。

- 既存フォレストの DNS サーバ（ドメインサーバ）の IP アドレス
- 新規作成ツリーのドメインの IP アドレス

■「サービス」画面

POINT

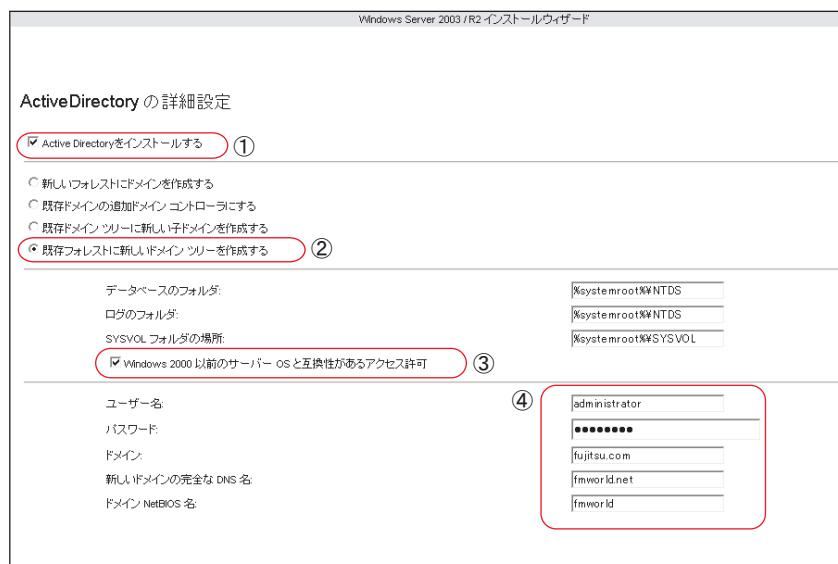
- ▶ OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



2 各項目を以下のように設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する」を選択します。

3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバー OS と互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

表：ドメイン登録の入力情報

項目	説明
ユーザー名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例：Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン	上位のユーザが所属しているドメイン
新しいドメインの完全な DNS 名	新規に作成するドメインの DNS 名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

1.4 Active Directory – 追加ドメインコントローラの構築

新しいドメインコントローラが追加された場合は、システムの信頼性と冗長性を重要視します。

ここでは、新しいドメインコントローラが追加された場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

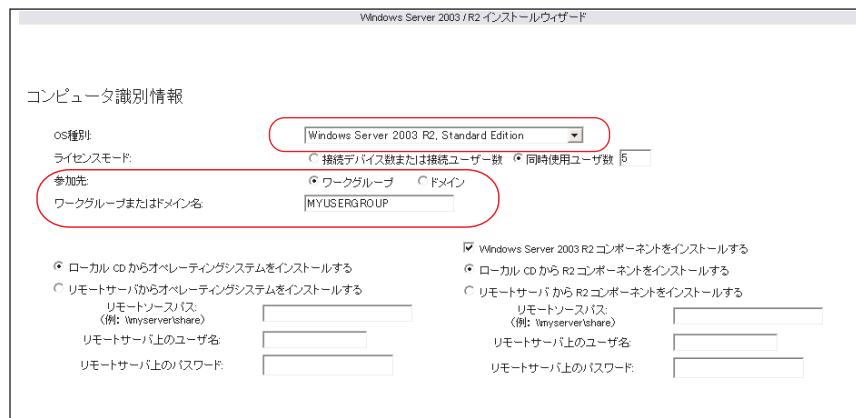
- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

1.4.1 追加ドメインコントローラ構築時の設定方法

追加ドメインコントローラを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

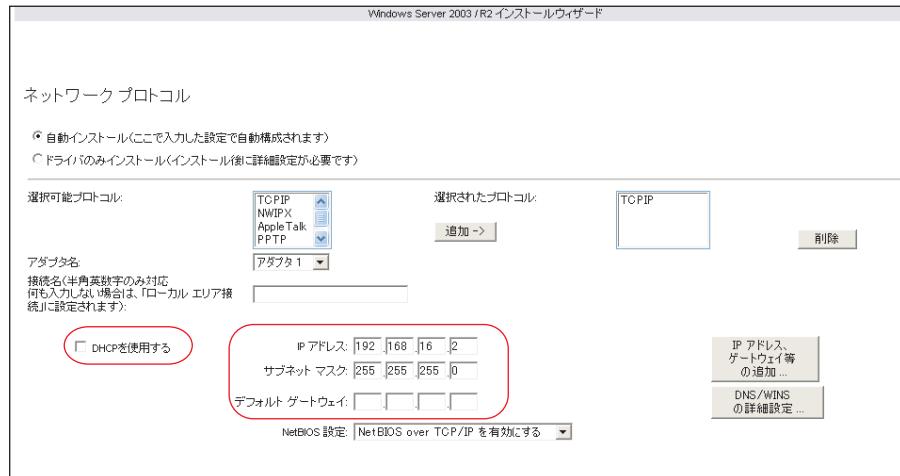
■「コンピュータ識別情報」画面

- 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

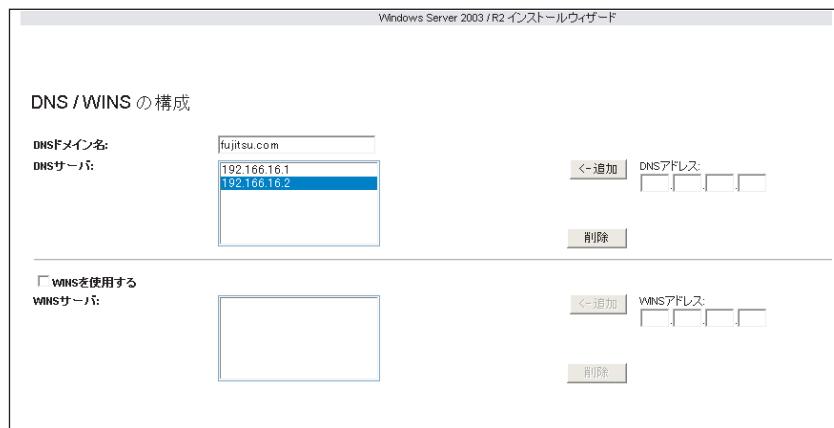


■「ネットワークプロトコル」画面

- 1 「DHCPを使用する」のチェックを外し、IPアドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。**



- 2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNSに関する詳細設定を行います。**



この例では、「DNS ドメイン名」に既存ドメイン名（この場合は fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に次のアドレスを入力します。

- 既存 DNS サーバの IP アドレス
- 新規作成ドメインコントローラの IP アドレス

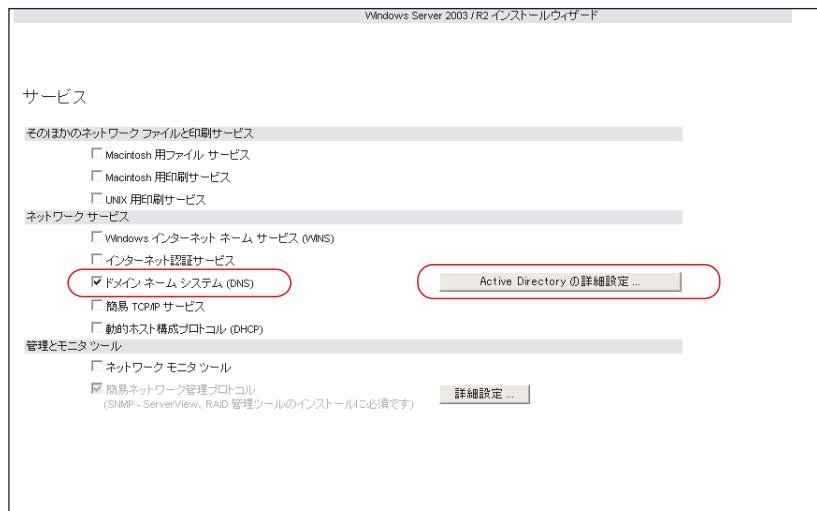
■「サービス」画面

POINT

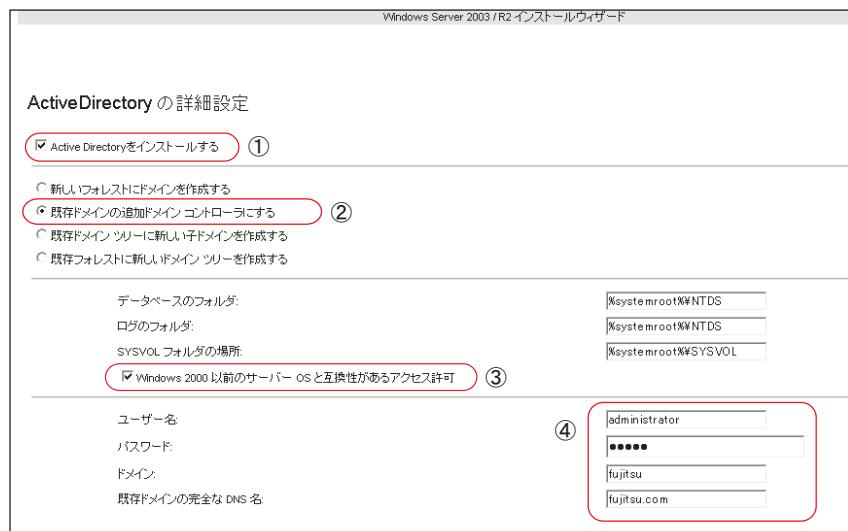
- ▶ OSインストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」のインストールにもチェックを付ける必要があります。



2 各項目を以下のように設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインコントローラにする」を選択します。

3. Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバー OS と互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

表：ドメイン登録の入力情報

項目	説明
ユーザー名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例：Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン	上位のユーザが所属しているドメイン NetBIOS 名
既存ドメインの完全な DNS 名	上位のユーザが所属しているドメイン名

1.5 Active Directory – 子ドメインの構築

子ドメインの構築方法について説明します。

1.5.1 子ドメインを構築する前に

子メンバドメインが構成されるのは、新しい下部組織が構成される場合です。

これは、新しいツリーの構成とよく似ていますが、子ドメインが上位のフォレストから DNS サフィックスを継承するのに対し、新ツリーはこれを継承しません。

次のような事例の場合、最初に対応するドメインパターンを選択します。

表：選択するドメインパターン

事例	選択するドメインパターン
ABCカンパニーに新たにコンサルティング部署が設立された。	子ドメイン
ABCカンパニーからコンサルティング部署が独立し、ABCコンサルティングカンパニーが設立された。	新ツリー

子ドメインを構築する前に、あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

重要

子ドメインを構築する際の注意事項

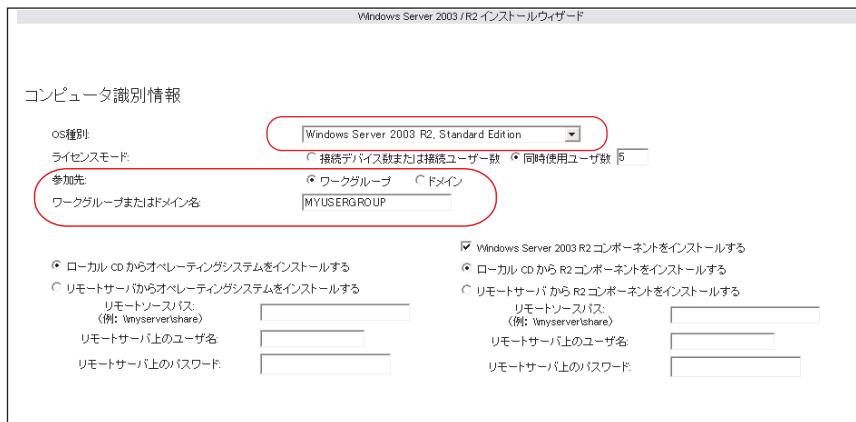
- DNSサーバで、あらかじめ新しいドメインのゾーンを作成しておく必要があります。「1.3.2 DNS ゾーンの作成」(→ P.12) を参照してください。

1.5.2 子ドメイン構築時の設定方法

子ドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

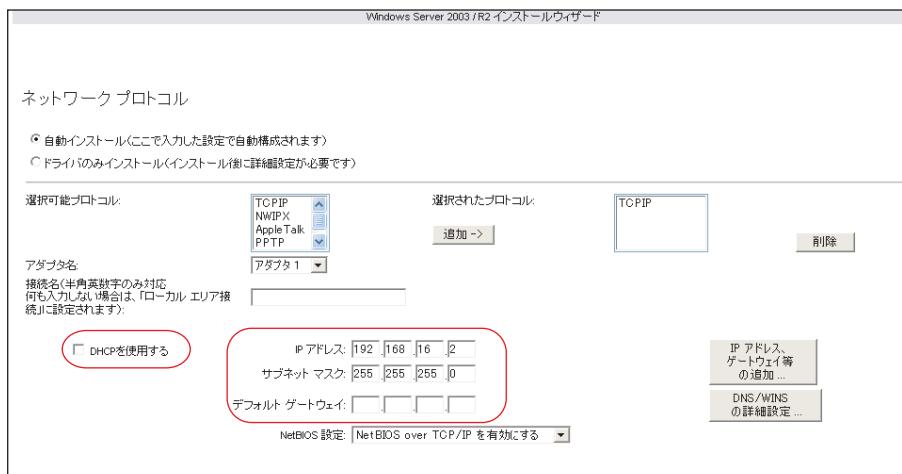
■「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。**

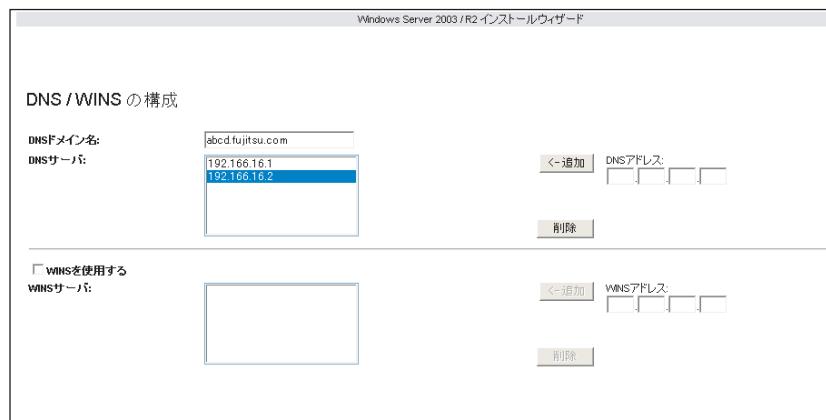


■「ネットワークプロトコル」画面

- 1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。**



2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



「DNS ドメイン名」に、作成する子ドメイン名（この例では abcd.fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に、次のアドレスを入力します。

- 既存 DNS サーバの IP アドレス
- 子ドメインのメインコントローラサーバの IP アドレス

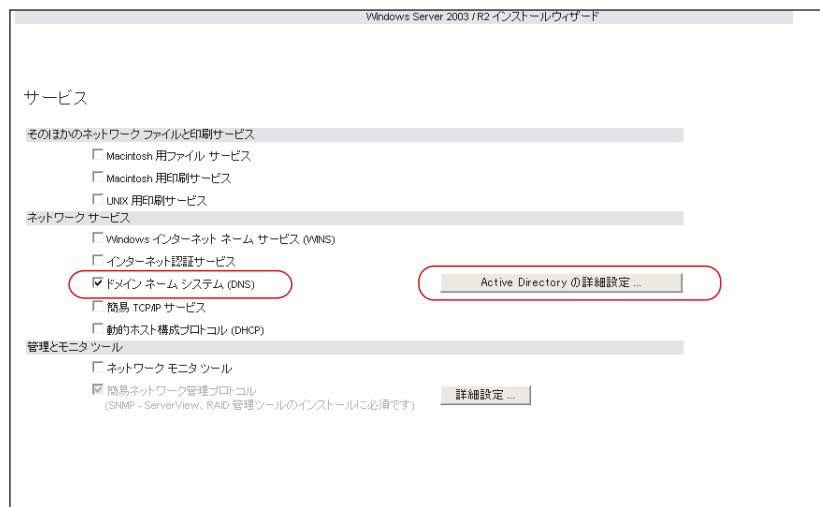
■「サービス」画面



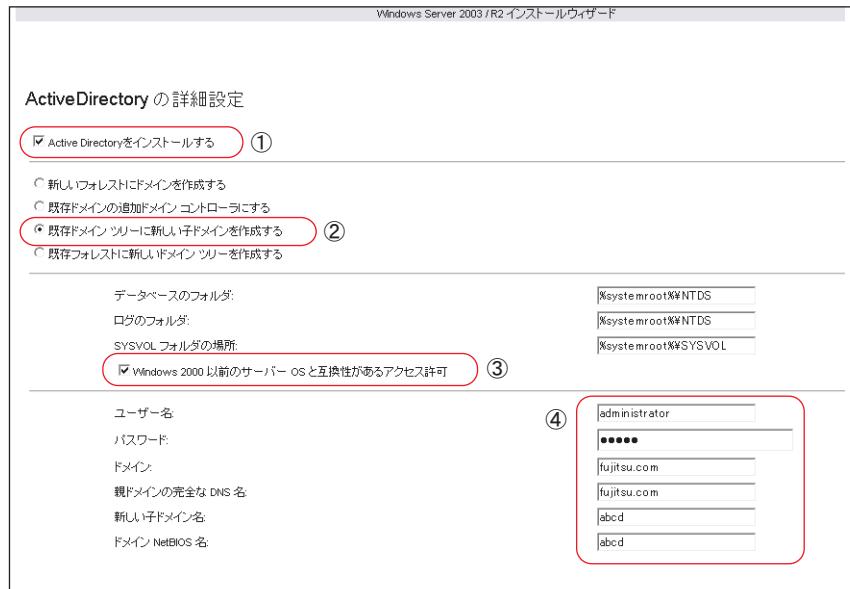
- OS インストールタイプの開封時は、「サービス」は設定できません。

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



2 各項目を以下のように設定します。



- 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
- 「既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する」を選択します。
- Windows 2000 以前のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバー OS と互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
- ドメイン登録に使う情報を入力します。

表：ドメイン登録の入力情報

項目	説明
ユーザー名	上位ドメインで、コンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント（例：Domain Admin のユーザ）
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン	上位のユーザが所属しているドメイン名
親ドメインの完全な DNS 名	上位のドメイン名
新しい子ドメイン名	新規に作成するドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

1.6 ドメインメンバーサーバの構成

ドメインメンバーサーバを構築するときの設定について説明します。

1.6.1 ドメインメンバーサーバ構築時の設定

ドメインメンバーサーバを構築する場合は、以下の設定を行います。

- コンピュータアカウントの作成

Windows 2000 ドメインの場合、ドメインコントローラ上で参加するコンピュータアカウントを作成します。コンピュータアカウントの作成の際には、コンピュータ名をあらかじめ決めておく必要があります。OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で設定します。

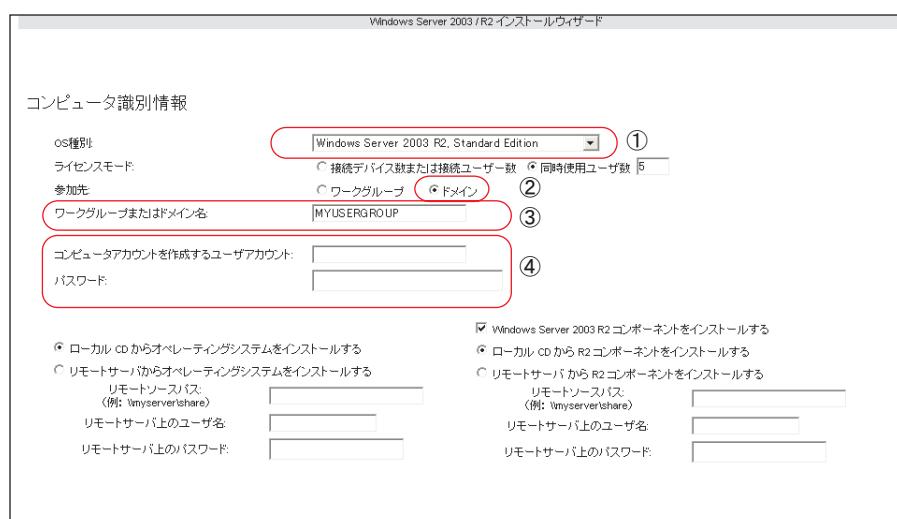
- ネットワークプロトコルの設定

ネットワークプロトコル設定で、DHCP を指定する場合と、固定 IP アドレスを指定する場合で、設定が異なります。

DHCP を使って IP アドレスをリースする場合は、DHCP サーバのサーバオプションに DNS サーバの情報を設定し、DNS へサーバ登録を行ってください。

■「コンピュータ識別情報」画面

- 各項目を以下のように設定します。



- 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
- 「参加先」の指定で「ドメイン」を選択します。
- 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメインを指定します。
- 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順4でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメイヌーザを指定することができます。

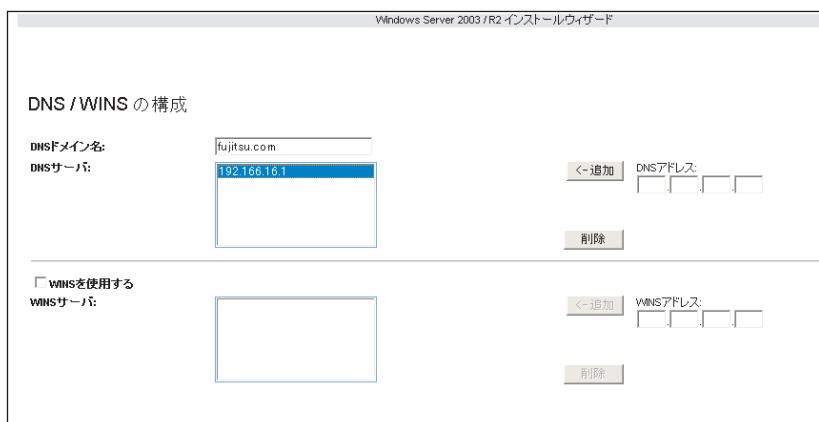
■ DNS / WINS の設定について

● ネットワークプロトコル設定で DHCP を指定する場合

参加先ドメインに DHCP が構成されており、DHCP サーバオプションで「DNS サーバ」が正しく設定されていることを確認してください。

● ネットワークプロトコル設定で固定 IP を指定する場合

- 「ネットワーク設定」画面の【DNS/WINS の詳細設定】をクリックし、DNS ドメイン名と DNS サーバの指定を行います。



1.7 スタンドアロンサーバの構成

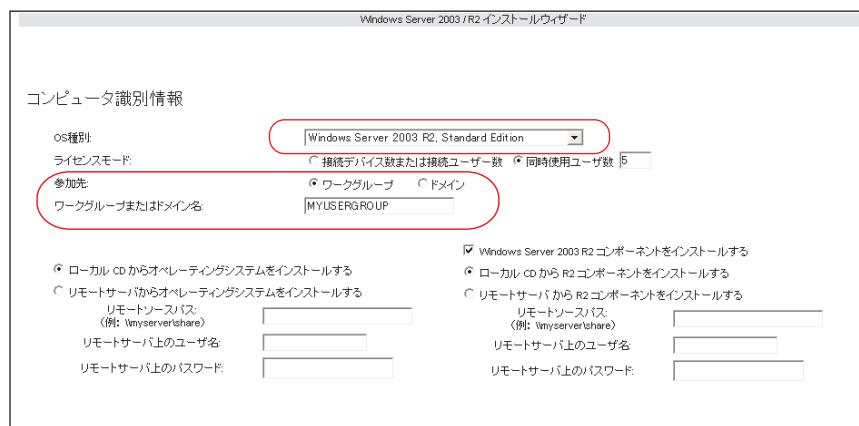
スタンドアロンサーバ構築時の設定について説明します。

● スタンドアロンサーバの特長

スタンドアロンサーバは、小規模な環境で利用するためのサーバです。このため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するので、管理性が低いという特徴があります。インストールするサーバがどのタスクを担うか早期に決定し、ドメインへ移行することをお勧めします。

■「コンピュータ識別情報」画面

1 各項目を以下のように設定します。



1. 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
2. 「参加先」の指定で「ワークグループ」を選択します。
3. 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するワークグループ名を指定します。

重要

- ▶ Active Directory の詳細設定画面では、何も設定しないでください。

索引

す

スタンドアロンサーバ	8
スタンドアロンサーバの構成	28

と

ドメインコントローラ	7
Active Directory ドメイン	7
ドメインツリーの構築	14
ドメインメンバサーバ	8
ドメインメンバサーバの構成	26

A

Active Directory の構成	
新しいツリー	12
新しいフォレストの構築	9
子ドメイン	22
追加ドメインコントローラ	18

D

DNS ゾーンの作成	12
------------	----

ServerStart 活用ガイド

B7FH-4251-01 Z0-00

発行日 2006年5月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。